

令和6年8月18日

南の風パリ五輪女子日本代表特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

パリ五輪予選、ドイツとの第2戦です。この試合に勝利すれば予選突破が見えてきます。

この試合アメリカ戦で頭部を負傷し、脳震盪を起こした山本 麻衣選手が欠場となりました。立ち上がり5つのターンオーバーも絡み、ドイツのサトウ・サバリー選手（193cmの高さと体の大きさ）を中心に0-11のランを作られ苦しい展開となりました。それでも1Qの終盤、ステファニー選手の3Pシュートなどで凌ぎ、**日本16対ドイツ21で1Q終了**。

2Qの序盤日本の流れとなり、高田選手の3Pシュートで同点になります。宮崎選手、エブリン選手の3Pシュートも決まりますが、終盤ドイツのサガリー選手の得点で離されます。残り0.7秒で高田選手が2Pシュートを沈め、**日本36対ドイツ42で前半が終了**。サバリー選手は前半23得点でした。

後半の3Qの出だし、日本はひまわり選手のレイアップ、高田選手の連続3Pシュートで好スタートを切り同点とします。しかしそこからドイツの高さのあるディフェンスの前に、オフェンスが停滞してしまい逆転することができず、逆に点差を広げられてしまい、結局このクォーターは13点に留まり、**日本49対ドイツ59**となります。

勝負の4Q。先手を取られながらも宮崎選手が鋭いドライブから得点を重ねて食い下がったが、勝負どころで勢いに乗り切れません。それでもひまわり選手の速攻、林選手の3Pシュートで5点差に詰め寄ります。最後はファウルゲームで逆転を狙いますが、ドイツにリードを広げられて試合終了となりました。**日本64対ドイツ75**。

この試合、敗因について私の考えです。

①3Pシュートの確率が上がらなかったこと

- ・30本の試投中成功が9本（確率30%）でした。原因は、ドイツディフェンスの早い対応により、タフなショットになってしまったこと。またドイツディフェンスの対応によって、日本のオフェンスが運動量のアップを強いられ、体力が削られシュートの精度が落ちた。

②日本ディフェンスのファウルがかさみ、ドイツフリースローの得点が増えてしまった

- ・フリースローだけで21点を与えてしまった（ドイツの成功率87.5%）審判のジャッジの厳しさもあったと思うが、そこにフォーカスしても仕方がない

③ドイツのサトウ・サバリー選手にトータル33得点、6リバウンドを許してしまった。前半だけで23点を取られてしまった

- ・サバリー選手の抑え方が徹底されていなかったように感じた。（オフェンスリバウンドの抑え方やオフボール時のチェックの仕方など）

④リバウンドで差を付けられてしまった

- ・総リバウンド数ドイツ48-日本34

内訳 OR ドイツ14-日本8 DR ドイツ34-日本26

以上です。日本は予選突破に向けて、いよいよ後がなくなりました。ベルギー戦に全力で向かわなくてはなりません。得失点差-37を覆さなければいけません。ベルギー戦は次号にします。